

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																						
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																						
学力の育成	(全校レベル) (1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上</td> <td>(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 78.8% (満足・おおむね満足)</td> <td>B</td> <td rowspan="6">B (所見) 教員数減で授業に支障が出ることもあったが、おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきたが、学習に対して積極的に取り組む生徒と、そうでない生徒との2極化が昨年度よりも進んでいる。その態度が学習成果に直結している。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。ここ数年で、合格率も低下しており、指導法の見直しも検討する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上</td> <td>(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均 時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上</td> <td>(3) 生徒の成績状況調査 年3回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>(4) 漢字検定実施状況調査 9回 5級以上 70%以上</td> <td>(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 63.7%</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上</td> <td>(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級以上合格 28.4%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 5回以上 授業力向上職員研修会 1回以上</td> <td>(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回(6・10・11月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上	(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 78.8% (満足・おおむね満足)	B	B (所見) 教員数減で授業に支障が出ることもあったが、おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきたが、学習に対して積極的に取り組む生徒と、そうでない生徒との2極化が昨年度よりも進んでいる。その態度が学習成果に直結している。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。ここ数年で、合格率も低下しており、指導法の見直しも検討する必要がある。	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均 時間		(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上	(3) 生徒の成績状況調査 年3回	A	(4) 漢字検定実施状況調査 9回 5級以上 70%以上	(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 63.7%	B	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級以上合格 28.4%	C	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 5回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回(6・10・11月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)	B	<p>○研究授業は大変であるが、学校全体の指導力の向上には大切であることを理解してほしい。</p> <p>○少人数での専門教育が学べる三好校は素晴らしく思う。</p> <p>○学校生活の基本は授業であることを生徒に理解させるとともに、基礎・基本を重視した授業の展開に努めてほしい。</p>	<p>○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからは計画的、継続的な指導が必要である。特に、個別指導の効果は大きく、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。</p> <p>○校内漢字検定、マナトレについては、停滞している生徒にもっと焦点を当て、指導していきたい。</p> <p>○授業力向上に向け、研究授業や職員研修会だけに頼ることなく、普段の中で情報の共有、伝達等が行えるような工夫をしていきたい。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																							
(1) 生徒の授業満足度調査 80%以上	(1) 生徒の授業満足度調査 (9月) 78.8% (満足・おおむね満足)	B	B (所見) 教員数減で授業に支障が出ることもあったが、おおむね計画通り実施できた。「学校生活の基本は授業である」ということを、全校集会等で事あるごとに話をしてきたが、学習に対して積極的に取り組む生徒と、そうでない生徒との2極化が昨年度よりも進んでいる。その態度が学習成果に直結している。授業は全体的に落ち着いた雰囲気の中で実施できている。実習にも積極的に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、まだまだ取り組みの甘い生徒もあり、残念ながら十分とは言えない。また、漢字検定とマナトレにおいても、全校的な取り組みとして効果を上げているが、まだまだ生徒によって取り組みに差がある。ここ数年で、合格率も低下しており、指導法の見直しも検討する必要がある。																								
(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上	(2) 授業実施時間数の状況調査 1単位平均 時間																										
(3) 生徒の成績状況調査 年2回以上	(3) 生徒の成績状況調査 年3回	A																									
(4) 漢字検定実施状況調査 9回 5級以上 70%以上	(4) 漢字検定実施状況調査 8回 5級以上 63.7%	B																									
(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級 70%以上	(5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 8級以上合格 28.4%	C																									
(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 5回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	(6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回(6・10・11月) 授業力向上職員研修会 1回(6月)	B																									
(下位組織レベル) (1) 基礎学力の向上を行う (2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。</td> <td>(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに2~3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、20回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ3回の研究授業を行った。</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。	(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに2~3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、20回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ3回の研究授業を行った。																						
活動計画	活動計画の実施状況																										
(1)-1成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 (1)-2追試・補講を実施して強力に指導を行う。 (2) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 (3) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 (4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 (5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 (6)-1年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 (6)-2教職員研修計画を作成し、指導力の向上を図る。	(1)-1 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 (1)-2 追考査、補講は計画的に実施した。 (2) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 (3) 5, 9, 1月に実力テストを実施した。 (4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年8回実施) (5) 各ホームルームに2~3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、20回実施した。 (6)-1 評価規準を含んだ年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 (6)-2 6月に授業力向上に関する職員研修会を実施した。また、のべ3回の研究授業を行った。																										

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1)読書力の向上を図る。 (下位組織レベル) (1)図書委員をはじめ、生徒主体の読書啓発活動に努める。 (2)読書環境の充実に努める。 (3)「読書の日」を設け意識の向上を図る。	評価指標 (1)図書委員の読書・図書館利用の啓発運動を実施 10回以上 (2)蔵書数の廃棄率 5%以上 (3)図書室通信の発行 年10回以上 (4)購入希望図書アンケートの実施 年8回	評価指標の達成度 (1) 図書委員の読書・図書館利用の啓発運動の実施 35回 (2) 蔵書数の廃棄率 5% (3) 図書通信の発行 年12回 (4) 購入希望図書のアンケートの実施 年10回	評定 総合評価 A (所見) 本年度から司書が辻校との兼務になり、三好校は偶数日のみの開館となった。当初、開館日が減ることで、来館者数・貸出数ともに減少するのではと懸念していたが、予想に反して、1学期の段階で、昨年度1年間の貸出数を上回った。年間では昨年より3倍以上である。 3年生の図書委員を中心に利用を促す活動を行ってきた成果である。開館日には必ず校内放送をし、その時期に合った原稿を作成したり、お薦めの本を紹介してきた。また司書と担当教員が連携を密にし、生徒一人一人の実態や状況を把握しながら、本を薦めてきた。またリクエストにはできるだけ応えた。 また利用者は固定メンバーでなく、今まで利用していなかった生徒も数多く利用してくれるようになった。 好立地にあることもあり、現在、生徒の憩いの場になっている。	○開館日が偶数日のみとなったが、本の貸し出し数が大幅に増加したことは高く評価できる。運営方法に工夫が見られる。 ○生徒たちの実態に合った図書館の運営は高く評価でき、今後も継続してほしい。 ○毎月の図書館だよりの発刊は負担となるが継続してほしい。 ○図書委員の活動は継続してほしい。 ○司書不在でも開館できるように検討してほしい。	○現在の貸出数・利用者の数をどう維持していくかが最大の課題となる。本年度の利用が多かったのは3年生であり、この学年の卒業後、下の学年の利用者を増やすための啓発活動を行っていく。 ○図書委員の活動をもっと発展的に行う。1・2年生の中には、図書委員以外でも、校内放送を自主的に引き受けてくれる者もできたので、継続して行う。 ○貸出数のみならず、本の選択の質の向上をめざす。生徒たちが好むのは図鑑やライトノベルの部類が多い。文芸書の部類にも目を向けられるようにしたい。 ○授業の調べ学習などで利用してもらえるよう、教職員に促す。
		活動計画 (1)図書委員に役割をもたせ、図書館の広報活動や、新刊図書の紹介を行う。また、生徒の本の紹介コーナーなどをつくる。 (2)生徒のニーズにあった図書を購入する一方で、時代に合わなくなった本や資料などの精選を行い、廃棄の手続きをする。 (3)図書だよりを通して、新刊図書など最新の情報を提供する。 (4) 購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。	活動計画の実施状況 (1) 図書委員が図書館利用を活発に啓発できた。本年度から、開館日は偶数日だけになり、例年の半以下になったが、来館者数・貸出数ともに昨年より3倍以上になった。開館日には、朝のSHRで担任の先生方に開館日の連絡をもらう他、図書委員による校内放送を行った。また、図書委員による新聞記事のコーナーを設けたり、お薦めの本の紹介文を書いてもらうなどを行った。 (2) 情報の古い本や資格試験に関わる本については廃棄したが、まだ手つかずのものがたくさんある。 (3) 毎月、図書館だよりに発行し、新刊の紹介や図書館情報を伝えていた。 (4) 本年度は、生徒のリクエストを中心に購入し、随時、希望を聞いてきた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	(全校レベル) (1)基本的な生活習慣の確立を図る。 (2)生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1)保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2)遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3)身だしなみ指導の徹底を図る。 (4)登下校指導を行う。 (5)交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1)家庭訪問実施回数 50回未満 (2)遅刻者率 0.5% (3)身だしなみ指導者率 10% (4)車両定期点検の実施回数 5回以上 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評価指標の達成度 (1)家庭への連絡実施回数 34回 (2)遅刻者率 1.5% (3)身だしなみ指導者率 12.5% (4)車両定期点検の実施回数 5回 (5)交通事故加害者数 0人 (6)いじめ問題件数 0件	評定 総合評価 B (所見) 3年生の中には遅刻の多い生徒がおり、社会人予備軍としての自覚が足りないように思われ。また、欠席数も多く自分の進路に対して悩みや、迷いから欠席数が増えているように思われるが、担任等が家庭訪問等でしっかりサポートできている。 身だしなみ指導では同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多い、特定の生徒が頭髮の改善指導を要する。 交通安全指導、列車の乗降指導、登下校指導など交通安全等についての知識やマナーの更なる向上が望まれる。 いじめに関しては、言葉のすれ違いなどで、友人関係が上手く作れない場面や、表面上での関係等がアンケート調査で見られるが、大きな問題行動等は認められなかった。	○教師と保護者の連携を密にし、学校と家庭の信頼関係をしっかりと作ってほしい。 ○学校内外での生活態度等十分に評価できる。小規模校の特性を利用し、一人一人にあった指導が行き届いている。 ○いじめ・交通に係る事は命に直接関係する大きな問題として、引き続き指導の徹底に努めてほしい。 ○中学校で不登校の生徒が三好校では、欠席せずに頑張っている。今後も個別の指導を継続してもらいたい。
		活動計画 (1)修学困難生への家庭訪問を実施する。 (2)-1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2)-2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3)毎月初めに頭髮・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4)車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5)-1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 (5)-2登下校指導計画を作成し指導を行う。 (あいさつ、遅刻、服装) (5)-3教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。 (6)-1いじめ問題の早期発見を行う。(アンケート調査の実施) (6)-2いじめ問題の早期解決を行う。(事後指導の確認)	活動計画の実施状況 (1)定期の家庭訪問以外に、学校生活や身だしなみ指導等での家庭訪問をし、家庭との連携を深めることができた。 (2)遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導管理することができた。 (3)毎月初めに頭髮・服装等身だしなみ検査を実施した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 (4)車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 (5)-1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 (5)-2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 (5)-3通学路の危険箇所確認と交通マナー列車の乗降マナーの向上を図った。 (6)-1毎学期アンケート調査を実施した。 (6)-2アンケート調査の結果を報告し、各担任等を中心に問題解決を行った。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校 2-III (保健厚生課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。 (下位組織レベル) (1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	評価指標 (1)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (2)保健だよりの発行 年12回 (3)①健康状態の把握 80%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 80%以上 (4)性に関する指導の理解度 80%以上 (5)救命救急法等の職員研修受講率 100%	評価指標の達成度 (1)保健関係ホームルーム活動 2回実施(うち全校生徒対象1回含む) (2)保健だよりの発行 平成30年3月までに11回発行 (3)①健康状態の把握 78% ②疾病やけがの手当等の理解度 94% (4)性に関する指導の理解度 97% (5)救命救急法等の職員研修受講率 教諭受講率92.3%、常勤教職員受講率62.5%	評定 A B B A B	総合評価 B (所見) 保健学習・保健教育では、各学年で養護教諭が指導者となり、保健関係のホームルーム活動を実施できた。生徒が健康について考えるよい機会となっていると思う。 しかし、自分の健康状態の把握ができていない生徒もいる。健康診断の結果等を活用しながら、個人に合わせた指導が必要である。 また、救命講習では、地元の消防署との連携を図ることで、最新の知識と技術を得ることができている。	○生徒の生命に関わる研修は継続して実施してほしい。 ○生徒対の実態に合わせた指導は今後も継続してもらいたい。 ○実習等で怪我をする場合もあると思われるが、安全教育を徹底してもらいたい。 ○スクールカウンセラー利用の適正化を期待している。	○ケガを含む小さな事故は、大きな事故の発生へと繋がる。保健室では、来室者に対し、応急処置の方法や悪化を防ぐための療養方法、また、事故の原因や再発防止のための方法を指導するなどして、生徒の危機管理能力の向上に努めていきたい。 また、救命講習では、受講できなかった教職員に伝達講習を実施するなど、誰もがいつでも対応できる体制を整えたい。 ○保健学習・保健教育では、健康診断結果の活用などを含め、生徒の実態に合わせたテーマを設定し、知識だけでなく実践力を養う指導を行いたい。
		活動計画 (1)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (2)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (3)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (4)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (5)救命救急法等の研修を実施する。 (1)~(5)学校保健計画・学校安全計画を作成し、計画的な指導を行う。	活動計画の実施状況 (1)健康教育ホームルーム活動では、年間行事計画に沿い、1年生は「デートDV」、2・3年生は「生活習慣」について実施した。また、全学年を対象とした性教育講演会を1回開催した。 (2)保健だよりを計11回発行した。発行は長期休業以外の毎月1回と、修学旅行前の1回。今年度は感染症の予防や生活習慣について詳しく取り上げ、学校や生徒の現状に合わせたものになるよう工夫した。 (3)各ホームルーム担任に依頼し、健康診断結果の通知を三者面談で行った。受診が必要となる項目や配慮を要する項目については、家庭との共通理解を図ることができた。また、保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法が習得できるよう、生徒の理解度に応じた指導を行った。健康教育においては、デートDVや生活習慣についての指導を行い、さらに全学年対象に性教育講演会を育講演会を実施した。 (4)学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (5)教職員対象として救命講習を1回開催した。消防署員を講師として招き、正確かつ最新の知識と技術を確認する場とした。 (1)~(5)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

徳島県立池田高等学校三好校 2-IV・V(教育相談・特別支援課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) (1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める。 (2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める。	評価指標 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	評価指標の達成度 (1)例年通り各担任等で対応した。 今年度は高等学校のモデルとしてスクールカウンセラーを導入した。 生徒76回、保護者6回実施。	評定 A	総合評価 B ----- (所見) 家庭の問題や学校生活の問題を誰にもいわずに抱えている生徒が多数いるように感じる。よく傾聴しなければ、聞き流されたと生徒から誤解されることも多く、高校生というよりも少し年齢が低い生徒の対応をしているという態度が必要だと思う。 特別支援教育では学び方やコミュニケーションの取り方に苦勞している生徒を安心して指導して、進路決定につなげていくという目的は達成できつつある。特に就労支援センター「はくあいと」の連携ができてることが非常に心強い。	○教師と生徒の信頼関係の構築は、生徒に大きな自信を与える力となるので大切にしていきたい。 ○スクールカウンセラーを利用した相談の充実がうかがえる。可能であれば次年度以降も継続してほしい。 ○生徒たちが悩みなく安心して、学校生活を過ごせるように今後も体系的な相談体制を充実させてもらいたい。
	(下位組織レベル) (1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 (2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。	(2)各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査QU)による生徒理解(各学年)	(2) 教研式高校知能検査は1年生の学年団に、学級満足度調査QUは各学級担任に示し、生徒理解に役立った。	B		
	(3)特別支援教育職員研修の充実を図る。	(3)職員研修における職員の満足度アンケートで2/3以上が満足	(3) 個別に口頭で回答していただいた。今年度1回の開催に止まった。	B		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	(1)教育相談日を設けカウンセリングを行う。次のことに配慮する。 ①教職員への親しみやすさ ②教職員との信頼関係 ③教職員との相談の満足	(1)教育相談日を金曜日としてカウンセリングを実施した。また、各教員がそれぞれの場面でカウンセリングを行い、効果を上げている。				
	(2)-1 各種検査を実施し生徒の問題を把握し、問題解決に取り組む。	(2)-1 学級満足度調査QUは生徒個々の生活スタイルやコミュニケーションの取り方を把握するのに大変参考になった。				
	(2)-2 それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。	(2)-2 毎週木曜日に実施している学び直しトレーニングで全教員が関わることで個人個人の能力の把握と指導に大きな役割を果たした。				
	(3)職員研修を1学期・2学期に実施する。	(3)2学期に職員研修を実施した。内容は生徒理解についてスクールカウンセラーから講義形式で研修を行った。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	B	<p>○楓祭, 体育祭など生徒の人数が減っているにもかかわらずよくやっていると感じた。</p> <p>○特別活動の活性化は, 生徒たちにとってとても大切なことである。今後とも工夫して頑張ってもらいたい。</p> <p>○学校行事や部活動のあり方が学校生活をより充実させると思うので期待したい。</p>
		<p>(1)ホームルーム活動満足度 80%以上</p> <p>(2)生徒会活動の状況 学校行事満足度 90%以上</p> <p>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上</p> <p>(4)部活動の加入状況 80%以上</p>	<p>(1)ホームルーム活動満足度 83%</p> <p>(2)生徒会活動の状況 学校行事満足度 85%</p> <p>(3)専門委員会活動状況 年間活動回数 3.8回</p> <p>(4)部活動加入率 74%</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p>			
	(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活発化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			<p>生徒を主体として学校行事を行う事によって、学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てることができた。</p> <p>また、HR活動を通して学年・HR単位での活動、専門委員会や異年齢集団による交流を促し、望ましい人間関係を形成する態度を育てることができた。</p> <p>一部の生徒のみが活躍するのではなく、生徒全員が満足感を得ることのできる生徒会活動、学校行事を行うことができるように努めていきたい。</p>
		<p>(1) よりよい人間関係づくりに努める。</p> <p>(2)-1 生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。</p> <p>(2)-2 前日祭実行委員会の活動の充実に努める。</p> <p>(3) 各種専門委員会の活動の充実に努める。</p> <p>(4) 部活動の充実に取り組む。</p>	<p>(1) より良い人間関係づくりを促すために、話し合い活動等を活用した授業を展開することができた。</p> <p>(2)-1 生徒会活動の年間計画を作成し、生徒会活動に活かすことができた。</p> <p>(2)-2 各学年から前日祭実行委員を集めることで、全学年のニーズに合わせて活動を考えることができた。</p> <p>(3) 計3回の専門委員会を行ったが、生徒会活動と各委員会での連携した活動へつなげることができなかった。</p> <p>(4) 教員、上級生からの勧誘などを積極的に行ったが、入部率の向上につながらなかった。</p>			<p>集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的態度を育てるために、生徒全員に焦点を当てて、学校行事や生徒会活動を行っていく必要がある。</p> <p>そのための方策として、より細かな活動計画を作成するとともに、専門委員会との連携を密にし、各HRでの要望を学校行事に活かしていく。</p> <p>上記の取組を遂行することで、生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、自己を生かす能力の向上へつなげていくことが重要である。</p>	

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 環境教育の推進を図るために、三好校エコスクールの推進と新学校版環境ISOの推進を実践する。 (2) 学校防災教育の推進を図るとともに、地域防災との連携を図る。 (下位組織レベル) (1) 校内外の美化活動を推進する。 (2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3) 防災学習の充実 (4) 防災訓練の充実 (5) 教職員生徒の防災意識向上及び防災リーダー育成を行う。	評価指標 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル15以上。 ①美化活動・エコ活動の達成度 90% ②節電昨年度比 10%減少 廃油の公用車等への利用 100% 2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間以上 ①HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% ②防災避難訓練実施 校内1回、地域との連携活動1回以上	評価指標の達成度 1) 新学校版環境ISOの総合評価レベル17で概ね達成できた。 ①美化活動・エコ活動の達成90% ②節電昨年度比 10% 廃油の公用車等への利用 0% 2) 学校防災の実践活動における実施時数 6時間 ①HRにおける防災・救急救命学習時間 100% ②防災避難訓練 校内2回、地域との連携活動2回	評定 A B A A (所見) 新学校版環境ISO計画に基づき、年間を通じて校内外の環境および美化活動の実践ができた。例年と大きな変化はないが、生徒は地域のために活動するという気持ちを育みながら活動に取り組んでいる。 学校防災教育については、過去の災害を未来の自分たちに繋げることを目的とした教育活動を進めている。本年度は7名の生徒が自主的に高校生防災士受講を希望し、1月現在で6名の防災士が誕生した。少人数ではあるが、地域で開催される研修や訓練にも参加し、防災意識の高まりを実感する。	○いつ、どこで発生するかもしれない自然災害に備え、今後も活動を継続してもらいたい。 ○生徒たちが安全で安心した学校生活を過ごせるよう施設等の安全点検も確実に実施してもらいたい。 ○いつ学校を訪れても、清掃が徹底されている。今後も継続して頂きたい。	新学校版環境ISO認定が平成31年3月31日までとなっている。三好校になり継続できる活動を精選し、継続認定に向けて準備が必要である。 学校防災教育については、地域で活躍できる生徒の育成を目指してこれまでの活動を継続していきたい。
		活動計画 1) ①-1校内外の清掃美化実践をする。 ①-2施設設備の補修等即対応する。 ①-3ゴミの分別100%を目指す。 ②-1エコキャップ・廃食油の回収と活用を実践する ②-2毎月の電気使用量についてデータを配布する。 ②-3こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 2) ①-1防災学習をして意識を高める。 ①-2救急救命の適切な指導をする。 ②-1有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 ②-2災害発生時の生徒・職員の生命・身体の安全を確保を目的とした防災研修を実施する。 ②-3地域との連携を図り、合同訓練の実施を計画・実践する。	活動計画の実施状況 1) ①-1定期的に校内外の美化活動を行った。 ①-2施設設備の補修等に即対応できた。 ①-3ゴミの分別は90%となった。 ②-1エコキャップの回収は継続できた。 ②-2電気使用量について広報できなかつた。 ②-3こまめな消灯の徹底など実践できた。 2) ①-1防災について生徒の意識は高くなった。 ①-2救急救命の講習に2度参加した。 ②-1校内で生徒を対象とした防災避難訓練と地震に対する対応訓練を実施した。 ②-2②-1と同様 ②-3地域のイベントに参加し、合同訓練に強力できた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
進路・ キャリア 教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の適性を踏まえ、能力を生かした進路の実現のための進路指導・キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握と適性・能力を加味した、進路意識の高揚に努める。 (2)進路情報の提供を丁寧に継続的に行う。 (3)事業所・進学先・ハローワーク・市役所等との連携に努める。 (4)生徒の学力の実態把握に努め、学力向上を推進する。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)進路説明会等の満足度 80%以上 (7)事業所訪問 30社以上 (8)進路補習への参加率 80%以上 (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 20回以上 ②7級合格率 70%以上 (10)効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施 3年生3回(4, 6, 12月) 各学年 年1回のガイダンス	評価指標の達成度 (1)3年生進路内定率 94% (2)2年生終了時の進路希望未定者0 (3)進路希望調査 年間2回 (4)面接回数 一人あたり3回程度 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)進路説明会等の満足度 80.4% (7)事業所訪問 26社 (8)進路補習への参加率 94% (9)マナトレ実施状況 ①実施回数 20回 ②7級合格率 23% (10)効果的な進路講演会及び進路ガイダンスの実施 3年生3回(4, 6, 8月) 各学年ガイダンス 2回	評定 B A B B B B A B C B A 総合評価 B 本年度の3年生も進路実現に向けて熱心に取り組み、内定・合格をいただいた。生半かな気持ちでは就職・進学をさせれないという先生方のご指導の結果である。その指導に素直に従い、自分の目標を持ち、必死に努力する生徒の姿を見ることができた。しかし、必死さが現れたのは目の前に試験が迫ってきた頃であった生徒も少なくはない。全体的にもう少し早めに行動する必要がある。また、基礎学力の定着の方策として、マナトレの効果的な学習方法を検討する必要がある。全体を通して、進路指導課を中心とした、系統立てた進路計画を展開する必要があると考えられる。	○進路内定率の100%を目指し、継続した指導体制を充実してもらいたい。 ○マナトレなど基礎学力定着を目指した取組は高く評価できるのではないかと。今後も継続してもらいたい。 ○教員の減少で先生の負担が増したが、粘り強い指導をお願いしたい。 ○コミュニケーション能力の育成が重要である。 ○読み書きの力を養い社会で生きていく力を培ってほしい。	○進路指導課を中心に3年計画で、系統立てた進路指導をしていく必要がある。ガイダンスや講演会はもちろんのこと、各学年と協力をして、進路のホームルーム活動の充実を図ってきたい。 ○教員数の減少により、進路事務の作業に追われる時間が増えた。一人の教員にその仕事が偏ってしまわないよう、進路課全員で分担しなければならない。また進路指導の方法について全教員で共通理解を図り、教職員・生徒がともに目標実現に向かって進んでいけるよう組織作りをしていかなければならない。
		活動計画 (1)個人・三者面談等を積極的に企画。3学年団との協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成する。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)効果的な面接方法についての資料提供等を行う。 (5)3年間の系統的なホームルーム活動及びガイダンスを実施する。 (6)効果的な進路説明会を学年団と検討する。 (7)従来からの関係事業所同様、新規事業所への開拓にも力を入れる。 (8)公務員模試・適性検査等を実施し進路意識を高める。 (9)マナトレ学習帳を各自使用し、個々の学習進度に応じたトレーニングに励ませる。 (10)適切な時期に適切な話をしていただける講師を探し、生徒の心に訴えるような講演会を企画する。	活動計画の実施状況 (1)担任・進路課で定期的に面談を行い生徒理解と指導に努めた。 (2)面談の結果を表にまとめ、企業訪問来客時の対応に役立てた。 (3)3年生は随時。1・2年生は2回行った。 (4)実施できず。 (5)各学年に応じた内容でガイダンスは行えたが、ホームルーム活動は系統的なものにはなっていない。 (6)外部業者に委託し、生徒にあった充実したものになった。 (7)新規事業所への求人雇用2件。 (8)3年生：SPI, 職適, 一般常識 2年生：職適検査 1年生：職適検査 (9)学校全体で取り組んでいるが、改善の必要あり。 (10)遠隔授業・県教委等外部の方の協力もあり、充実した内容の講演会が実施できた。生徒も満足できていた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
キャリア教育	(全校レベル) (1) 特色ある農業教育の推進を図る。 (2) 地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ① 地域連携の推進を図る。 ② 教職員の資質向上を図る。 ③ 資格取得の推進を図る。 ④ 農業クラブ活動の活性化を図る。	評価指標 (1) 課題研究成果の充実 (3研究以上) (2) 農業科授業研修の実施 年間3回 (3) 学校開放講座参加者の満足度	評価指標の達成度 (1) 研究成果を校外にて報告 4研究 (2) 農業科授業研修の実施 年間2回 (3) 学校開放講座参加者の満足度	評定 A C A	総合評価 B 科目「地域貢献」等を活用し、本校農業教育の特色の1つである地域と連携した取組を推進することにより、本校のみならず、地域の活性化につなげることができた。また、その取組において、関係団体とのネットワークを構築することにより、専門科目の深化・生徒の進路実現につながった。 また、地域の課題解決に向けた取組・研究は生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながり、本校教職員の資質も向上するなど、本校の強みとなっている。	○地域と連携した取組は、生徒の力になるのと同時に、地域の活性化にもつながっている。 ○三好校の取組は、新聞やメディアにも多く取り上げられ、高い評価を受けている。今後も継続して頑張ってもらいたい。 ○多様な取組は、大いに期待している。 ○山地農場の水の問題は早急に解決してもらいたい。 ○地域と連携し、獣害対策に取り組んでももらいたい。 ○ホンシメジの技術移転が進んでいるが、この取組は地域の活性化に結びついている。	○生徒の課題・地域の課題を常に把握し、その解決を目指す取組を充実させることが、本校農業教育の活性化につながると捉え、現在の取組を継続、深化させたい。そのためは、関係団体との連携をさらに密にすることで、地域の教育資源を有効に活用することが望まれる。さらに、上記の取組を遂行することで、学校の存在価値・生徒の学習価値を高め、生徒の進路へとつなげていくことが重要である。
		活動計画 (1)-1農場生産物を活用した6次産業化を推進する。 (1)-2地域貢献活動からエシカル消費を推進する。 (2) 教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する。 (3) 学校開放講座の実施により、地域連携を推進する。 (4) 農業技術検定に対応した補習体制を構築する。 (5) 生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する。 (6) 科目「地域貢献」の適正な活動計画と内容の充実を図る。 (7) 実習ノートを活用し、実習科目の充実を図る。	活動計画の実施状況 (1) -1地元企業や他校と連携し普及活動を実施。地域の課題と向き合い、6次産業化に向けた取組を展開した。 (1) -2環境保全・地産地消等、農林業を学ぶ学習活動の実践からエシカルについて発信することができた。 (2) 公開授業を実施したことで、お互いの気付きが得られた。 (3) 生徒が指導者として講座に参加し、自信を付ける活躍の場となった。 (4) 補習計画を立て実施したが、合格率向上にはつながらなかった。 (5) プロジェクト発表で、四国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6) 年間62回地域と連携した取組を実施することができた。 (7) 実習内容と自己評価を記入することで、態度や行動力の向上が見られた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
人権意識の高揚	(全校レベル) (1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 (2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) (1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 (2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 (3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 (4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 (5) いじめ防止に等に関する具体的な取組を行う。	評価指標 (1) 「人権学習ホームルーム活動」実施回数5回・生徒の充実度 90%以上。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度 90%以上。 (3) 人権教育教職員研修・年3回以上実施。 (4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施。各学期、道徳教育週間5日間実施。 (5) 学校生活アンケート毎学期実施・生徒の満足度100%。	評価指標の達成度 (1) 人権ホームルーム活動回数は5回実施できた。充実度は74%だった。 (2) 「学校人権の日」における生徒の充実度は69%であった。 (3) 人権教育研修会は2学期末までで2回実施。3学期末に1回実施予定。 (4) 道徳ホームルーム活動を年間2回以上実施できた。また道徳週間も実施できた。 (6) 学校生活アンケートは年度当初のみで、毎学期実施できていない。生徒の満足度は86%であった。	評定 総合評価 B	○最近の子供たちはゲームに夢中になり、人権意識が希薄になっている。学校での人権教育は肝要である。 ○生徒意識のアンケートを充実し、生徒の課題に沿った取組を行うことが大切である。	学科制であるゆえ、クラス替えが無いなかで、人間関係をどのように構築していくかが大切になってくる。入学時の段階で、円滑な集団生活に入れるように工夫する必要がある。またアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が主体的に考えることによって、卒業後も自らの人権感覚を高められるような力を養う。学習内容については、長年、踏襲されたものが多く、時代や社会のニーズに応じたものにしていく必要がある。教職員の研修は時期・内容・方法とも検討していく。
		活動計画 (1) 人権教育課とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 (2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。当日の啓発の中心となるよう人権委員の事前指導を行う。毎回振り返りシートを実施する。 (3) 講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行い充実を図る。 (4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し道徳教育週間を実施する。 (5) いじめ未然防止・早期発見への取組を充実させるとともに、各学年・各課との連携により組織的な対応を図る。	活動計画の実施状況 (1) 本年度から新しい内容やテーマに取り組み、学年や実態に合わせた学習内容を設定できた。 (2) 人権委員には講演会などの準備や、講師へのお礼の言葉などで活動してもらったが、活発にできたとは言えない。毎回振り返りシートを書き、講師の先生方へ送った。 (3) 実施した研修では、視聴覚教材を用い、アイスブレイキングの手法などを取り入れている。また、全体的な研修の他に、若い先生方への個別の研修を行った。 (4) 本年度、道徳教育への啓発はあまりできなかった。 (5) 教職員の情報共有・連携は密にでき、学年団で対応できている。	学校生活に対する満足度は学年が上がるに従って上がってくる。3年間を通して、生徒同士の関係性が安定してくるのだと思う。また、教師の丁寧な関わり方が実を結ぶ時期だと思う。しかし、1・2年は、まだ人間関係がうまく築けなかったり、学校生活そのものに対応できなかったりする者も多く、満足度は3学年に比べ、低くなる。 人権ホームルームへの充実度については、活動的な学習方法を取り入れて行っていることもあり、高い評価が得られているが、「人権の日」の学習は時間も短いこともあり、記憶に残ってないものもある。内容や方法も検討していく必要がある。 また、教職員対象の研修の参加率が低かったので、改善したい。		

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成29年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) (1)幼小中学校へ情報発信(異校種間連携)を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用して情報発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間50回以上 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上 (3)学校開放講座の参加者の満足度 100% (4)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間107回 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 21回 (3)学校開放講座の参加者の満足度 100% (4)保護者の学校行事等への参加状況 年間129人	評定 A A A A 総合評価 A PTA役員をはじめ、多くの保護者の方々の熱心な取組により、楓祭・体育祭など充実した活動内容となった。 また、専門高校の特性を生かした地域連携活動など、新聞、テレビなど、メディアで報道された回数も多く、ホームページと合わせ、本校の活動を十分に発信することができた。 三好校となり、規模は縮小したが、取組内容は以前より活性化したように感じる。	○HPの更新回数などの情報発信は学校生活がよくわかり継続してもらいたい。 ○職員数が減少したが、開放講座は継続してもらいたい。 ○三好校は教育の特色を生かし、地域にとって必要な学校となった。これからも地域と密着した取組を期待する。	○保護者・地元の方々との交流・報道メディア等をとおして、本校の教育活動を広報するとともに、池田高校本校・辻校・三好校の特徴を活かした連携活動を推進していきたい。
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (4)役員会等の活性化を図り、行事への参加者増加を進める。	活動の成果・課題 (1)PTA役員との協議を重ね、学校祭・体育祭等の各種行事の活性化につなげることができた。 (2)-1幼稚園での食育教育、学校農場を開放しての野菜・果樹の収穫など本校と異校種の教育活動を融合することができた。 (2)-2地域のイベント等に積極的に参加し、販売・展示等をとおして本校教育活動を広報することができた。 (3)中学生体験入学を2回、開放講座を5日間実施し、本校教育活動の広報につなげることができた。 (5)役員だけでなく、多くの保護者の方にご協力頂き、学校行事の活性化につなげることができた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要